

教育研究所紀要

第30号

2012年3月

追手門学院大学教育研究所

ISSN 0915-2075

Bulletin
of
Institute for Educational Research

Vol. 30

March 2012



Institute for Educational Research, OTEMON GAKUIN UNIVERSITY
2-1-15, Nishi-Ai, Ibaraki, Osaka, JAPAN

追手門学院大学教育研究所紀要

第30号 (2012年 3 月)

【特集：“わかる”を促す教育実践】

「わかる」を促す教育実践～双方向型授業へのパラダイム変換	梅村 修	1
「分る」を促す教育実践	難波 誠	13
“わかる”を促す教育実践のための予備的考察	岡崎 利美	16
人間の存在 (presence) を体験する授業の試み	永野 浩二	25
「分かりやすい」授業と「分かる」を促す授業	古川 隆司	41

【自由論文】

鹿児島紀行		
—高島鞆之助の生誕地を訪ねて—	三崎 一明	47
正課授業における「インターンシップ」の効果検証		
—「就業力育成」の観点から1年目の省察—	土肥 眞琴	64
新入生演習における研究室訪問		
—アジア学科「新入生演習 C」の活動報告—	櫛引祐希子	73
Reading Aloud as a Means of Improving Oral Fluency	箱崎 雄子	83
	R. E. MILLER	
大阪偕行社附属中学校・追手門学院中・高等学校・大学設立の経緯		
—山口校長, 八束学院長, 上田学院長事務取扱 の人となりと学院中等教育の展開—	横井 貞弘	93
学生主体型授業の取り組み		
—「あっ」と驚く授業と事務のNG集—	杉原 真晃	105
模擬交渉を利用した学部生向けコミュニケーション演習	田上 正範	116

2011年度教育研究所彙報		123
2011年度活動のまとめ		
2011年度活動記録		
2011年度所員・研究員名簿		
編集後記		

執筆要項

1. 原稿の構成

- 1) 掲載形態は①特集論文②自由論文の、①②いずれかであること
- 2) タイトルは日本語のみの表記とする（要約は不要）
- 3) 所属名
学校名または学部・学科または所属課・事務室、職名（教員の場合）、執筆者名
- 4) 本文・注・文献（仕上がりは B5 判）
400 字詰め原稿用紙 35 枚程度
（1 ページ 43 字×33 行=1,419 字、表題等のスペース（9 行分）も含め、原則として 10 ページ以内。図表等で 10 ページを超える場合は事前に相談。）
文中表記について、句読点の仕上がりは「、」「。」とする
注釈の形式は、脚注・文末いずれも可。他に基準は設けない。
参考文献の記載は、文末のみ可。他に基準は設けない。
- 5) 図表、写真の使用について
原則として版下図を提出すること
他からの引用については、必ず執筆者が許諾手続きをとること

2. 連絡先：追手門学院大学教育研究所

- 1) デジタル原稿の場合、電子メール（添付ファイル形式）、CD または、FD（フロッピーディスク）
- 2) プリントアウトしたものを 1 部（A4 判）提出する
- 3) CD、FD（フロッピーディスク）は原則として返却しない

3. 原稿の校正

- 1) 原稿の校正は 2 回までとする
- 2) 校正時の執筆者による大幅な加筆・修正は認めない

4. その他

著作権は追手門学院大学に帰属し、刊行後本学ホームページ上で公開します

追手門学院大学教育研究所紀要 第30号

2012 年 3 月 25 日発行

発行者：追手門学院大学教育研究所

〒567-8502 茨木市西安威 2 丁目 1 番 15 号

TEL：072-641-9659

編集者：梅村 修

印刷所：協和印刷株式会社

〒615-0052 京都市右京区西院清水町 13

TEL：075-312-4010
